



厳冬期の使者 —オジロワシ—

津軽白神森林生態系保全センター 専門官 有本 実

クロマツ林を抜けて十三湖の湖岸にたどり着いた瞬間、頭上の枝から突然オジロワシの幼鳥が湖面に飛び立ちました①。レンズ越しに鋭い眼光で睨まれると、背筋が凍るほどの圧倒的な存在感。酉年の幕開けとなった今号は、そんなオジロワシのご紹介です。

オジロワシといえば真冬の北海道、流氷の上に止まる勇姿を想像される方が多いでしょう。日本では一般的に冬鳥で、晩秋にシベリア方面から越冬のために渡ってきますが、北海道の一部では繁殖して真夏でも目にすることができます②。ここ東北では11～3月頃まで見られ、吹雪の中のオジロワシはなかなか様になります③。

2月の八郎瀨で、突然マガンの群れが一斉に飛び立ち何事かと双眼鏡をのぞくと、パニック状態のマガンに紛れて1羽のオジロワシが飛んでいました④。水鳥を襲うこともあるらしいのですが、マガンはあっという間に逃

げ去ってしまいました。あの巨体でほかの鳥を襲うのは、やはり分が悪いのでしょう。

オジロワシは海岸や河口域で良く見つかりますが、それは主食が大型魚類であるためです。本種が良く観察される場所とは、サケやタラなどを育む豊かな水辺環境がある証なのです。絶滅危惧Ⅱ類に指定されている本種の保全には、海岸林や河畔林の保全が不可欠でしょう。さらに視野を広げれば、下流域の豊かな水辺は上流域の豊かな森があってこそ存在するもの。川の河口付近に本種がいるか否かは、その流域全体の生態系のバロメーターになるかもしれません。

上流域の森のシンボル・イヌワシに思いを馳せながら下流域の水辺のシンボル・オジロワシを観察する…酔狂かもしれませんが、そんな厳冬期のバードウォッチングもお勧めですよ。



①飛び立つ幼鳥



②真夏の海辺で佇む成鳥



③吹雪に耐える成鳥



④マガンがパニックに！